

石川県白山自然保護センター普及誌

# はくさん

第35巻 第4号



## 白山比咩神社

古来より石川県（加賀）側から白山へ登る道は、「加賀禅定道」と呼ばれ、その起点は現在の「白山比咩神社」です。祭神は白山比咩大神（菊理媛尊）を初めとして伊弉諾尊、伊弉册尊を祀り、地元では「しらやまさん」の愛称で親しまれています。

江戸時代の頃は、越前の平泉寺が白山山頂部を支配していましたが、明治の「神仏分離令」によって、白山山頂部にあった白山奥宮などの社殿や室が白山比咩神社にまかせられることになり、さらに第二次世界大戦後に白山の山頂部は、白山比咩神社の社有地となり現在に至っています。白山の夏山シーズンには神社の神職が山頂で各種神事を執り行っています。

2008年の今年、創建二千百年を迎えるとされ、社殿等の整備事業のほか10月には「御鎮座二千百年式年大祭」が挙行されることになっています。 (小川 弘司)



# 2007年の夏、白山はどのくらい暑かったのか？ — 白山山頂部の夏山の気象観測をもとに —

東野外志男 (白山自然保護センター)

2007年(昨年)の夏、日本列島は猛暑で新聞紙上を騒がせました。7月は平均気温が北日本や東日本、西日本では平年より低く、南西諸島では高い月でしたが、8月の平均気温は全国的に高温で、東日本や西日本で顕著でした。特に中旬は暑さが厳しく、埼玉県熊谷と岐阜県多治見では、日本の観測史上最も高い気温(40.9℃)を8月16日に観測しました。金沢では8月に35℃以上の猛暑日が4日間あり、30℃以上の真夏日が8月1日から21日間連続しました。

白山の山頂部は標高が高いため、平野部に比べかなり涼しいのですが、猛暑といわれた昨年の夏、白山の山頂部は平年に比べてどうだったのでしょうか。山頂部での気象観測値をもとに考えてみたいと思います。

## ☀ 白山山頂部での夏山の気象観測 ☀

気象観測は主に気象庁によって全国各地で行われていますが、山岳地での気象観測は多くありません。特に1年を通じての気象観測ということになるとほとんどないようです。しかし、登山シーズンの夏山の時期だけに限れば、代表的な山岳地について7月と8月の気象観測が、昭和30年代の後半から(財)日本気象協会によって行われてきました。

一般にはあまり知られてないかもしれませんが、白山山頂部の室堂平でも1964(昭和39)年から夏山の気象観測が行われてきました。観測場所は室堂(ビジター)センターの近くです(写真1、図1)。1999(平成11)年までは、そこからほぼ南へ約100mの位置で観測が行われていました。観測所名は「白山室堂」です。標高は約2,450mで、白山の最高峰である御前峰(2,702m)より約250m低いところ(図1)。

観測項目は、天気、気温、降水量、湿度、雲量、視程、風向風速です。気温は9時、15時の定時と、最高気温と最低気温が毎日観測されています。年間を通じての観測ではありませんが、白山の山頂部の気象を知るのには重要な資料です。



写真1 室堂センターと気象観測場所

中央の大きな建物が室堂センターで、その少し手前に見える風速計(直立した細い棒のようなものが見える)のあるところで、(財)日本気象協会によって夏山の気象観測が行なわれている。2007年9月13日撮影。

## ☀ 2007 年の夏の暑さを考えるには ☀

これから 2007 年の夏の暑さについて、日毎の気温や、それらの月や旬などの平均値を、他の年や平年（いつもの年）の気温と比較して考えていきますが、一言で表せるほど簡単なものではありません。通常このような比較をするときに、もともになるのが日毎に計算された気温の平均値（日平均値）です。この“日平均値”は、1 日 24 回の正時（1 時、2 時など、分、秒の端数が見つからない時刻）の気温の観測値を平均して求めるのが普通です。旬や月の気温の平均値はその“日平均値”を平均し、1 年の平均値は月の平均値を平均して算出します。通常、このように計算された“日平均値”や“月平均値”などを使用して、その時々暑さを考えます。

白山山頂部（観測所名：白山室堂）では、9 時と 15 時の気温と、最高気温と最低気温が報告され、1 日 24 回の正時の気温は残念ながら観測されていません。そのため、上述の気温の

“日平均値”は算出できないので、他の観測値をもとにして考えます。9 時と 15 時の気温と最高気温と最低気温のうち、使用するデータや平均する期間の取り方などによって、夏の暑さの言い方が多少変わる可能性はあります。今回は“暑さ”ということですので、最高気温を使用して 2007 年の夏の暑さについて考えてみます。最高気温の日毎の値や旬・月ごとの平均値、20℃以上であった日数などを、平年の値や他の年などと比較して考えていきます。

今回、1964 年から 2007 年までの長期間のデータを使用しますが、欠測の場合もあります。平均値を計算する際、そのもととなる観測が、20%を超える欠測がある場合には採用されません。図 3 に 1964～2007 年の各年の 8 月の最高気温の平均値が示してありますが、1995・1996・2000 年の数値が抜けているのはそのためです。1965 年については、データが収集できていません。



図 1 白山山頂部の夏山気象観測の位置

1999（平成 11）年までは、現位置からほぼ南へ約 100m の位置で観測が行なわれていた。基図は国土地理院発行 1/25,000 の「白山」（平成 9 年発行）を使用。

## ☀ “平年（いつもの年）” の気温とは ☀

前節に 2007 年の夏の気温を平年（いつもの年）と比べると述べましたが、“平年”とは何を意味するのでしょうか。人によっては、自分の過去の感覚だけや、もしくはここ数年の気温をもとにするかもしれませんが、気象観測では“平年”にあたるものを定義しています。それは連続する 30 年間の平均値のことで、“平年値”といいます。平年値の計算に用いられる 30 年間は、西暦年次の 1 の位が 1 の年から数えて連続する 30 年間のことで、現在用いられる平年値は 1971（昭和 46）年から 2000（平成 12）年の 30 年間の観測値をもとに計算されたものです。平年値は気温のみならず様々な気象項目について統計が集計され、それぞれの観測地点の代表的な値として用いられています。

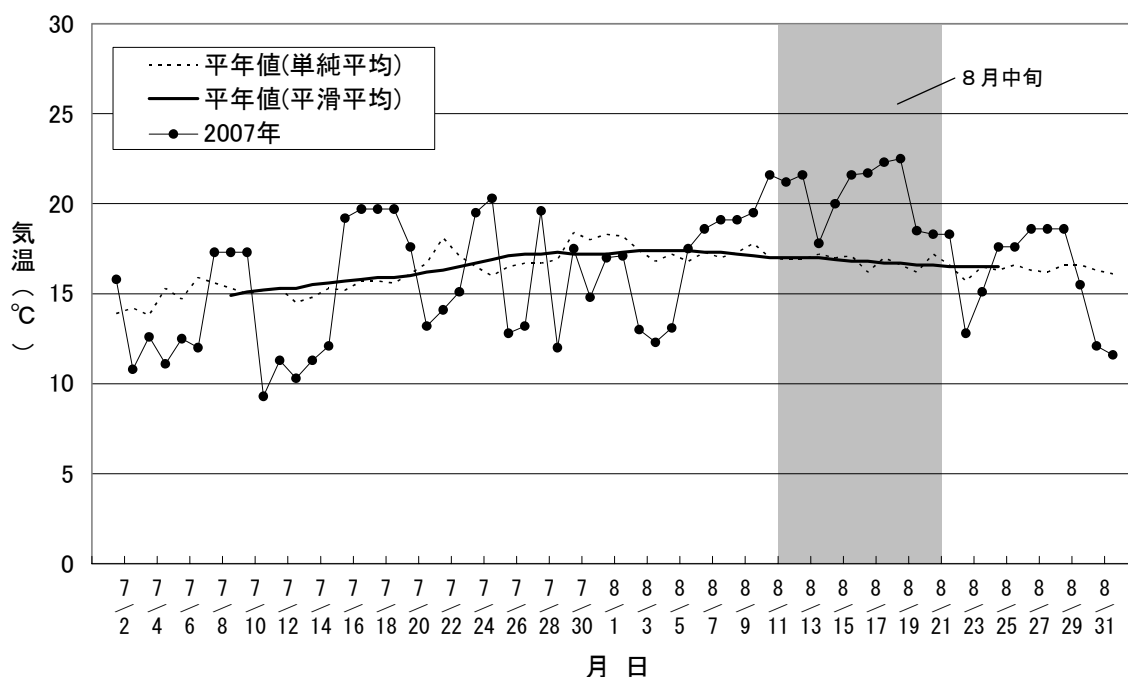


図2 白山山頂部（観測所名：白山室堂）における7・8月(7/1~8/31)の最高気温の日別平年値（日別単純平年値と日別平滑平年値）と2007(平成19)年7・8月の日別最高気温の観測値  
 日別単純平年値と日別平滑平年値については本文を参照されたし。日別平年値は東野(2000)「白山室堂平における7・8月（1971～2000年）の日別・月別平年値の算出」による。詳細な計算方法などは同論文を参照されたし。

## ☀ 日別の最高気温からみれば ☀

図2に2007年7・8月の白山山頂部での日毎の最高温度を示しました。同図には、30年間の観測をもとにした日別の最高気温の平年値も示してあります。平年値は単純平均と平滑平均の2つが示されています。単純平均は1971～2000年の30年間のそれぞれの日の最高気温を平均したものです。平滑平均はそれぞれの日を中心に前後7日間を含めた合計15日の単純平均値をもとに平均したものです。7月1～7日と8月25～31日の平滑平均値が示されていないのは、6月と9月の観測値がないためです。単純平均は多少凹凸がありますが、それと比較して平滑平均は凹凸が少なくなります。平年値を計算する際の年数が30年間といえども期間としては短く、単純平均に変動が残されているのはそのためで、まだ十分に平均状態を表せていないと考えられます。一方、平滑平均は前後の日の単純平均の値も用いて平均値を計算するため、単純平均よりも凹凸が和らげられ、全体的にはほぼ滑らかな線になっています。全体的なトレンドを見るのに有用です。白山へ登山した際、その日の最高気温が平年より高かったか、もしくは低かったかを知るには、この日別の平年値が有用です。単純平均と平滑平均のどちらがよいかは、一概にはいえませんが、その意味を知っていればどちらを使用してもよいと思います。ここでは、平滑平年値を用いて話を進めましょう。

2007年の白山山頂部は、いつもの年に比べて、7月では13日間が平年値を上回り、18日間が下回っています(7月1～7日の平滑平年値は示されていませんが、単純平年値から推測。8月も同様)。上回っている場合と下回っている場合の平年値からの差に、それほどの違いもないので、平年を下回っている日数が上回っている日数より多いことから、7月は平年並み以下であったと考えられます。最高値は7月24日の20.3℃で、平年値を3.4℃上まわっていますが、その差は8月の最高値ほど(後述)ではありません。一方、8月については、7月とは異なり平年値を上回る日数は22日間で、多くなります。平年との差が4℃以上高かった日も7日間ありました。最高気温は8月18日の22.5℃で、平年値より5.8℃高い値です。1964～2007年の8月の日別の最高気温のベストワンは

1994年8月15日の25.0℃  
 です(表1)。昨年8月18  
 日の最高気温は、ベストテ  
 ンには入りませんが、27位  
 です。欠測やデータが収集  
 できなかったものもありま  
 すが、単純に計算すれば43  
 年間(1964～2007年、1965  
 年を除く)の8月の日数の  
 合計である1,333日(31日  
 ×43年)の上からほぼ2%にあたる順位ですから、かなり高い気温であったといえます。

7月 (年月日)	1位	2位	3位	4位	5位
	24.1℃ ( '96/7/17)	24.1℃ ( '86/7/30)	24.0℃ ( '94/7/30)	24.0℃ ( '94/7/16)	23.9℃ ( '96/7/18)
8月 (年月日)	1位	2位	3位	3位	5位
	25.0℃ ( '94/8/15)	24.6℃ ( '90/8/5)	24.0℃ ( '94/8/16)	24.0℃ ( '94/8/8)	23.9℃ ( '90/8/8)
	6位	7位	8位	9位	10位
	23.5℃ ( '96/7/16)	23.5℃ ( '92/7/29)	23.3℃ ( '01/7/24)	23.3℃ ( '00/7/31)	23.3℃ ( '78/7/8)
	23.8℃ ( '73/8/11)	23.6℃ ( '99/8/10)	23.5℃ ( '94/8/31)	23.5℃ ( '94/8/17)	23.5℃ ( '93/8/26)

表1 1964～2007年の7・8月の最高気温の順位  
 同値の場合、気象庁の気象観測指針に従い、起日の新しい方を上位とした。

## ☀ 月や旬の最高気温の平均値からみれば ☀

2007年7月の日別の最高気温を、月に平均した値は15.0℃です。最高気温の7月の平年値(1971～2000年の各年の7月の最高気温の平均値を平均したもの。旬の平年値も同様に算出)は15.9℃で、0.9℃下回っています。1964年から2007年で収集された41年間の7月の最高気温の平均値の順位でも、半分以下の27位でした。平年値からの差や順位から、2007年7月は平年を下回っていた月だったといえます。

8月については、最高気温の月の平均値は17.8℃です。平年値は16.8℃で、その差は+1℃です。1964年から2007年で収集された40年間の8月の最高気温の平均値の中では8位になり、表現はうまくないかもしれませんが、上の中というところでしょうか。ちなみに、最高気温の平均値のなかで1位だったのは2006年の8月で、19.0℃です(図3)。平年値より2.2℃も高い年でした。

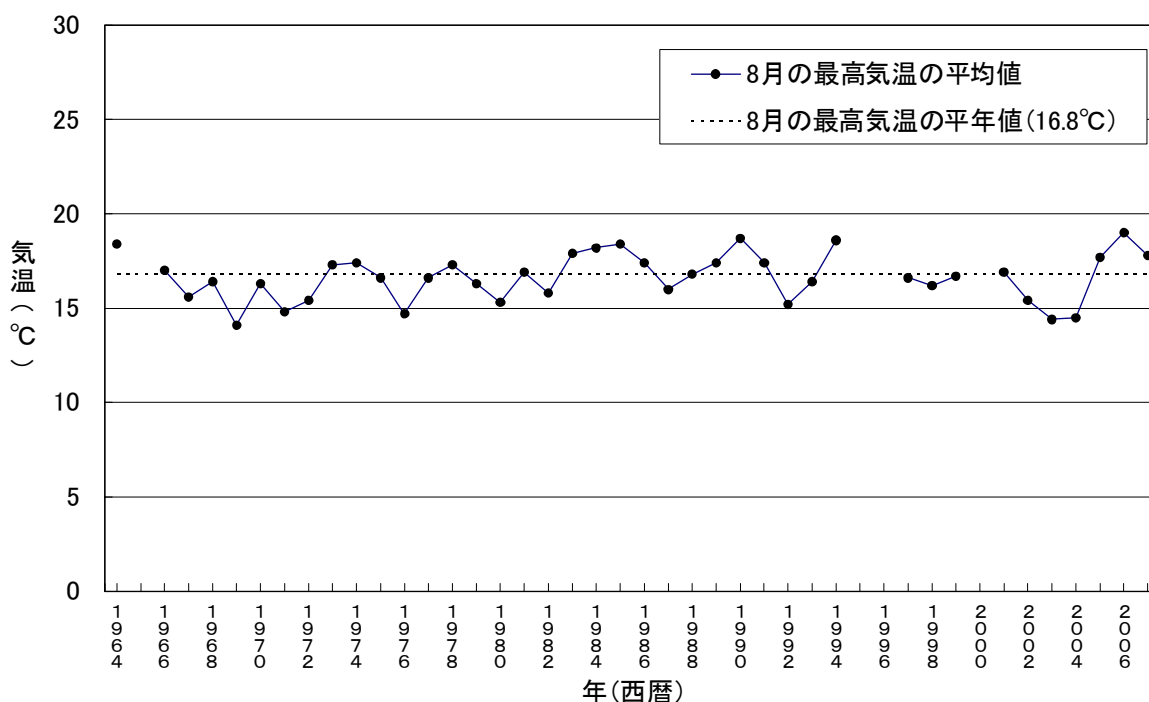


図3 白山山頂部の8月の平均最高気温の平年値と各年の8月の平均最高気温  
 平年値(16.8℃)は東野(2000)による。1996年は全て欠測のため、1995・2000年は欠測が多いため示していない。1965年はデータが収集されていない。

月の平均値からいえば、2007年8月の最高気温は上の中というところですが、2007年の夏、全国的に特に暑さが厳しかったのは8月の中旬です。次に8月の旬毎の平均値から見てみましょう。旬毎の平均値は、上旬が17.1℃、中旬が20.6℃、下旬が16.0℃で、中旬が著しく高かったのがわかります。8月の旬毎の平年値と比べてみると、上旬と下旬は中旬に比べて低い値ですが、平年値との差はそれぞれ-0.2℃と-0.3℃でわずかに低いで、ほぼ平年並といえるでしょう。一方、中旬の平均値(20.6℃)は平年値に比べると3.8℃も高い値で、これまでの1964~2007年の8月中旬の観測値のなかでは最も高い値でした。

## 20度以上の日数からみれば

気象庁では、30℃以上の日を真夏日、35℃以上の日を猛暑日としています。昨年8月、金沢では真夏日が25日、猛暑日が4日で、平年の20.1日と1.7日をそれぞれ上まわり、特に猛暑日が多かったのが特徴です。

白山は標高が高いので、30℃を超えるということはありませんが、基準の温度をもとにみるのも1つの方法です。白山の観測場所は標高が2,450mです。場所によってもちろん異なりますが、通常100m標高が高くなる毎に気温が約0.6℃減少するといわれています。単純に計算すると、白山室堂では約15℃平地より低くなります。猛暑日は35℃以上ですが、そこから15℃を引くと20℃になります。この20℃を基準にして、昨年の夏を見てみます。山頂部の20℃以上の日は、勝手な名称ですが、“白山山頂部の猛暑日”とでもいえるものでしょうか。

2007年7月については、20℃以上は1日間のみですが、8月は8日間ありました。これまでの観測で、20℃以上の日数が最も多かったのは、7月では1994年の14日間で、8月は1990年の13日間です。2007年の8月の8日間という数字は、ベスト8位になるものです。中旬だけに限れば、10日間のうち7日間が20℃以上で、その順位は最高気温の平均気温と同様に歴代で1位になります。

## 昨年の夏はどのくらい暑かったのか

2007年(昨年)の夏の暑さについて、最高気温を過去の観測データと比較しながら考えてきました。7月については、平年値を超えた日数、月の平均値、20℃を超えた日数、いずれの場合でも、平年より低い月でした。一方、8月については、上述のいずれの指標でも平年を上まわっています。月の平均値は平年より1℃上まわり、1964~2007年の観測の中で8位でした。旬を基準にすると、上旬と下旬の最高気温の平均値はほぼ平年並でしたが、中旬の平均値は1964~2007年のなかで最も高い値で、20℃以上の日数も中旬に限れば歴代1位でした。2007年の気象状況を反映し、日本列島の他の地域と同様に、8月中旬は平年に比べかなり暑かったのが特徴だったといえます。

今回は最高気温の日別の値や月・旬の平均値などをもとに、昨年の夏の特徴について考えてみました。9時、15時の定時の気温や最低気温を使用すると、大きくは変わらないと思いますが、多少違った言い方もでてくるでしょう。また、データの処理によっても異なり、その一つの例として、平均値を使用する場合に、平均する期間によって変わってくるのは上述したとおりです。白山山頂部における夏期の気温の変遷などについては、今後これらのことがらも含めて総合的に考えていく必要があると考えています。

本文で使用した白山山頂部の気象観測値は(財)日本気象協会によるものですが、平均値や月の平均値などの算出、順位などは著者によるものです。全国や金沢の気象状況は、気象庁のホームページや「石川県の気象・地震概況」を参考にしました。



# 白山麓開発に賭けた夢 —小堀定信と金名鉄道—

新本 欣悟 (石川県立大聖寺実業高校)

## はじめに

1926 (大正 15) 年 12 月、金名鉄道株式会社は「第三期線」として、石川県能美郡鳥越村 (現白山市、以下同様) 河原山から岐阜県郡上八幡まで約 94km の敷設を鉄道大臣に出願しました。同社社長の小堀定信 (1888～1964) は「金名鉄道計画書概要」のなかで、この鉄道が完成すれば金沢と名古屋を 6 時間で、さらに設備を整えば 4 時間で結ぶことが可能になると述べています。しかし手取川支流の尾添川沿いに鉄道を敷設し、白山山系



旧白山下駅前にある小堀定信の胸像

を越え岐阜県白川村に至る工事は、当時の人々の常識から見て空想とも評価されかねないもので、現実に本計画は実現しませんでした。いったい「金名鉄道」とはどんな構想で、小堀定信とはどんな人物だったのでしょうか？



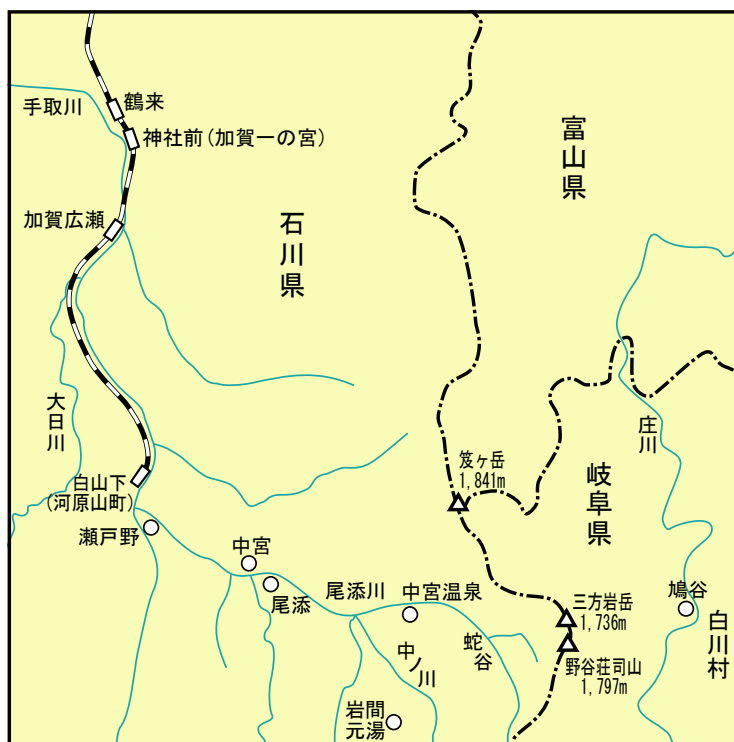
## 金沢・名古屋連絡鉄道構想のあゆみ

1892 (明治 25) 年鉄道敷設法が制定され、政府による鉄道建設計画が明らかになりました。その中で福井県敦賀市と富山市の間が「第一期鉄道」に指定され、翌年より工事が開始されました。反面「第一期」線に指定されなかった金沢—七尾間や富山—岐阜間などでは政府による鉄道建設の見込みがたたず、私企業による建設が求められました。日清戦争勝利の翌年 (1896 年) には軍拡政策の一環として金沢市に陸軍第九師団の設置が決定しましたが、これをきっかけに「金沢—福井県大野—岐阜県白鳥—名古屋」というルートで金沢・名古屋両師団を連絡し、沿線の物産運搬による経済効果を期待する鉄道計画がおこりました。さらに日露戦争終結の翌年 (1906 年) には国家による鉄道経営の一元化を進めるために鉄道国有化法が制定されました。その結果金沢—白峰—大野—白鳥—名古屋 (「金峰鉄道」)、金沢—井波—利賀—高山—美濃大田—名古屋 (「金名鉄道」) という 2 つの構想が浮上し、明治末 (1911～12 年) には金沢商業会議所や金沢市会による政府・議会への働きかけが強まりましたが、政府は「飛越線」(富山—高山—岐阜間) 敷設を優先する姿勢を決定しました。金沢市会は運動をあきらめましたが、商業会議所は飛越線との連絡をはかるため富山県八尾と金沢を結ぶ鉄道の敷設を急いで貴族院・衆議院に請願しました。





1927（昭和2）年9月に水利組合との協定が成立し工事が再開され、同年末に鶴来—白山下（河原山）間全線開業にこぎ着けましたが、工事の大幅な遅れによって期待されていた白山水力吉野谷・鳥越発電所工事資材輸送費の収入は激減し、一方では用水組合への過大な賠償を強いられました。さらに鉄道敷地代金の支払い請求も強まり、金名鉄道の経営は著しく悪化しました。その結果1929年3月鶴来—神社前（加賀一の宮）の路線と営業権を金沢電軌へ売却することになりました。その後も深刻な不景気が続く中（昭和恐慌）で、金名鉄道と小堀家の経営苦境が続いたのです。



鶴来から白山下・白川郷

鶴来—白山下間が小堀定信によって建設された「金名鉄道」。小堀はさらに尾添川沿いに岐阜県境を越え、白川郷から南下するルートを計画していた。



往時の金名鉄道 釜清水駅（1955年）

写真提供：鳥越一向一揆歴史館



## 郡上八幡への延長構想

冒頭に述べた白山下（河原山）―郡上八幡間の敷設出願は、セケ用水問題が紛糾している最中のことでした。ルートは鉄道省の計画線（大野経由）ではなく手取川支流尾添川沿いに東に進み岐阜県境を越え（現在の白山スーパー林道に近いルート）、白川郷から庄川・長良川沿いに南下するものでした。小堀は鉄道省による越美線（白鳥―福井）の建設工事が遅れている状況から金沢―大野―大垣線（鉄道省建設予定線）着工は不可能と判断し、最短距離で既成線を接続するルートを選んだのです。さらに手取川・庄川などで発電所建設が相次ぐことを予想し、発電工事用の資材輸送による収入も見込んでいました。

郡上八幡への敷設出願に際し、石川・岐阜両県の国会議員や県議員など沿線の有力者の支持を得ていました。しかし920万円もの巨額の建設費を調達することは困難で、1927年（昭和2）外国人投資家から1,000万円の資金導入を試みま

したが失敗しました。一方、当時庄川中流の富山県小牧ではダム式発電所建設をめぐる電力会社と上流の木材業者の対立が深刻化していましたが（「庄川流木争議」）、小堀は筏いかだによる木材輸送に替えて岐阜県白川村から郡上八幡への鉄道建設を提案することで事態解決を図るプランを関係者に働きかけました。しかし1930（昭和5）年に電力会社の寄付金で岐阜県白鳥と白川村鳩谷間の道路を大改修することで問題は決着し、電力会社の資金を当て込んだ金名線延長の可能性は失われました。小堀自身も尾添川上流の森林伐採のため金名鉄道終点白山下駅から吉野谷村（現白山市）中宮までの木材運搬専用鉄道建設構想を抱いていましたが、進展しませんでした。こうして小堀は1932年段階で鉄道延長を断念したようで、以後は道路での石川・岐阜両県連絡を唱えるようになりました。



金名線のルートとなっていた蛇谷

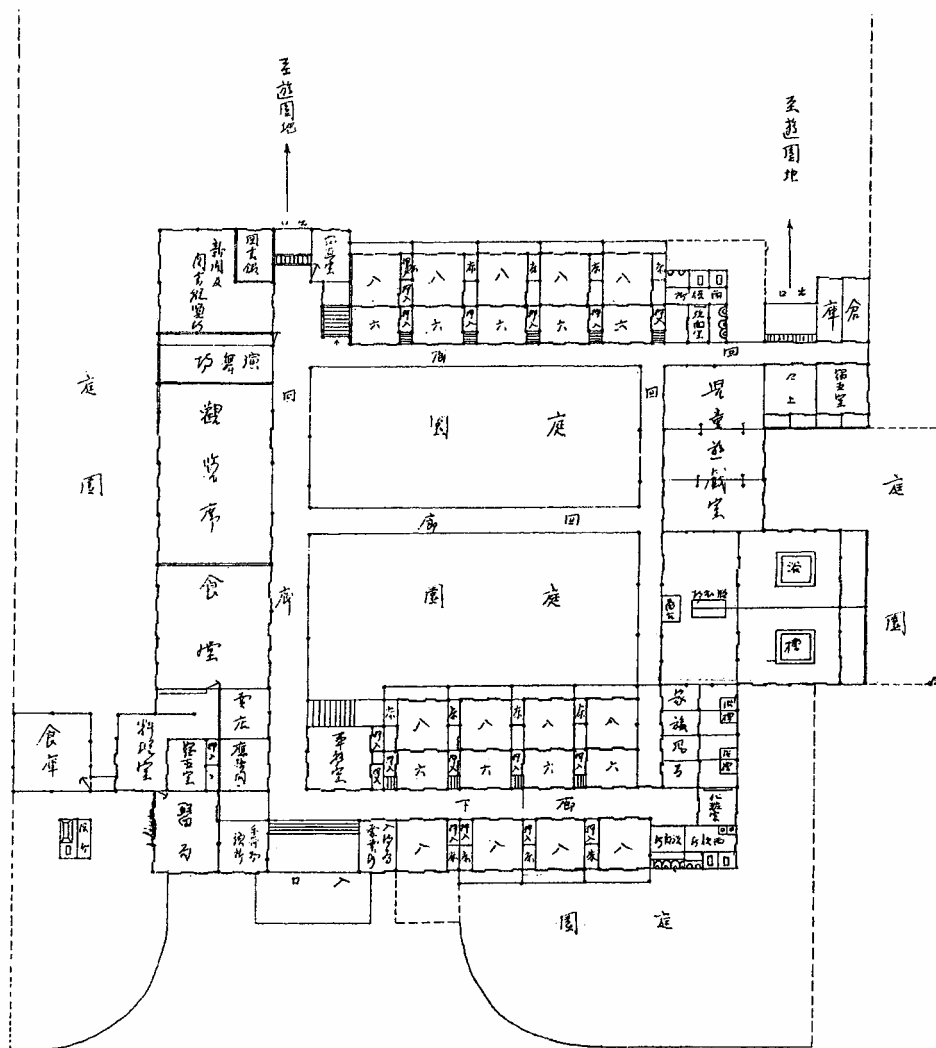
1977年、白山スーパー林道が開通した。写真提供：白山市教育委員会



## 白山麓の森林・温泉開発構想と電気事業

莫大な建設費を必要とする郡上八幡への金名線延長は、人口の少ない地域を通るため乗客収入は望み薄で、沿線の産業開発を進めることで経営を安定させる必要がありました。冒頭にあげました「金名鉄道計画概要」の中で小堀は、鉄道を建設する動機として、白山麓の産業開発に貢献することをあげています。具体的には白山下駅周辺の石灰層など鉱産物の開発、発電所建設や林業を促進することをあげていますが、中でも小堀は森林開発に最大の関心を示しました。

小堀家に残された文書によりますと、尾口村（現白山市）尾添・吉野谷村中宮の共有林の大部分は大正中期に大阪府・静岡県人の手にわたり、尾添川上流の中ノ川、湯ノ谷の一部で乱伐が行われ



小堀定信が構想した遊園地旅館部平面図  
 小堀俊治家所蔵。資料提供：白山市教育委員会

たそうです。これに対し交通を整備することで林業と発電所開発を促進しようと考えた小堀は、白山水力株式会社の後援を得て金名鉄道出願と同時期(1924年)に中宮地内の山林伐採権などを購入、1925(大正14)年2月に資本金10万円の加賀農林株式会社を組織しました。同社は製材・製炭、樹木の売買、交通機関事業・電気事業への投資などを業務としましたが、「過度ノ投資」のため解散に追い込まれました。昭和初期には白山水力株式会社(1933年矢作水力株式会社に合併)によって尾添川中流に尾口発電所建設が進められましたが、小堀は治水・治山・水源涵養をめざす同社と中宮区との仲介役を引き受ける形で木材の伐採権を得ました。こうして太平洋戦時下、中宮区内で300町歩におよぶ植林事業が構想され、戦後にかけて林業経営が行われましたが、戦時体制の深刻化や敗戦後の混乱・資金難から十分な成果はあがりませんでした。

林業とならんで小堀が重視した分野は温泉開発でした。金名鉄道出願当初(1925年3月)、小堀は尾口村尾添区住民との間で、尾添地内湯ノ谷(岩間元湯)で湧き出す温泉を引湯し温泉営業を営む契約を結びました。「契約証」によれば、毎年5~10月は尾添地内で、11~4月は小堀の「任意ノ箇所」で営業し、純益金の3割を地元側に納付し、さらに入浴客や物資輸送の便宜をはかるため尾添地内の道路を拡幅することになっていました。次いで1928(昭和3)年に金名鉄道株式会社は岩間温泉から尾口村瀬戸野まで17kmあまりを引湯し温泉経営を行う「温泉引湯計画書」をまとめました。これは26万円もの資金を投資する大規模な事業計画で、総建坪105坪の2階建て共同浴場、庭球コート、花壇、迷園、小動物園、児童用運動遊戯設備、さらに温泉地域の街並みと上下水施設

を整備することまでも構想されていました。設計図に描かれたモダンなイメージからは当時話題を集めていた阪神急行電鉄宝塚遊園の影響がうかがえます。さらに小堀は同年8月には中宮区内蛇谷国有林（親谷）に湧き出す温泉を引湯するための借地願を農林省に提出しており、温泉経営を通じた鉄道事業振興に大きな期待を寄せていたようです。しかし構想はいずれも実現しませんでした。

このように様々な事業を構想した小堀ですが、鉄道経営の困難から常に資金不足に悩まされ成功例は多くはありませんでした。そうした中で七ヶ用水を利用した低落差発電所建設（1937年鶴来発電所竣工）、太平洋戦争期には鶴来町での電力を利用したカーバイト製造（報国工業有限会社）など、白山水力関係者との太い人的パイプを生かした電気事業ではいくつかの成果が残されました。



## 小堀定信の地域開発構想

金名線全通という夢に取り憑かれた小堀は、鉄道沿線（白山麓）の産業を発展させる方策をひたむきに探り続けました。一方明治末期以降日本の大陸進出（植民地拡大）政策が強まり大陸進出の拠点としての北陸の重要性が高まると、金名線構想の軍事的重要性が従来以上に高まりました。そして小堀定信の目も日本海を越えた大陸地域に向けられ始めました。例えば小堀は1928（昭和3）年朝鮮半島西北端の鴨緑江河口干潟の未墾地貸付願を朝鮮総督に提出しており、1933年には朝鮮半島東北国境に近い羅津・雄基・清津港の不動産購入に乗り出した形跡が確認できます。さらに日中戦争の時期には、内モンゴルの電気化学工業関係者（カーバイト製造業者）とも頻りに連絡を取り合っています。一方国内では昭和初期に金沢発展策の目玉として唱えられた金沢築港計画にも大きな関心を示し、金名線（道路）建設と金沢築港を一括した運動を展開しています。このように戦時体制が強化される中で、小堀は大陸進出の拠点として自らの地域（白山麓・石川県）を位置づけることで、金名間連絡という悲願を実現しようとしてきました。

敗戦後小堀は次第に事業から手を引き、1964（昭和39）年に亡くなりました。小堀家には昭和20年代から死の直前に至るまで小堀が記したメモ・ビラ類が大量に残されています。その内容は石川県における川の水の有効活用（ダム建設）、白山国立公園の設立による観光振興、戦時下で乱伐された森林破壊の現状を警告するものなどです。

北陸鉄道によって引き継がれた金名線は、1987年廃線となり、現在の鉄道路線は加賀一の宮が終点となっています。小堀の残した足跡をふり返り、往時の金名鉄道をたどってみてください。



旧金名鉄道終点白山下駅前





ブナオ山観察舎のキャラクター・かもちゃん

はくさん 山のまなび舎だより

# カモシカ見つけた！

野生どうぶつウォッチング

白山の冬の自然を満喫



白山一里野温泉スキー場上方の尾根にたたずむカモシカの親子

白山自然保護センターの「野生どうぶつウォッチング」は3月16日、白山市一里野のブナオ山観察舎とその周辺で親子連れら53名が参加して行われました。好天の下、雪の森でカモシカ観察や純白の峰々の眺望を楽しみ、白山の冬の自然に親しみました。

午前中はブナオ山観察舎で白山一里野温泉観光協会の北村秀紀会長や白山自然保護センター職員から白山の野生動物やブナオ山観察舎についての話を聞き、折からブナオ山の斜面に姿を見せたニホンザルの群れを観察しました。昼食後は、白山一里野温泉スキー場のゴンドラで標高約1,000mまで上り、かんじきやスノーシューをはいて周辺の雪の尾根筋を歩き、野生動物や植物の冬芽などを観察しました。特にカモシカは親子連れを含め数頭が見つかり、そのつど参加者から歓声が上がりました。

この催しは白山一里野温泉観光協会、スノーエリアマネジメント白山、白山市地域振興公社の協力で開催され、参加者には記念グッズも贈られました。



## 発見！

「いたいた！」「2頭だ。親子かな」と双眼鏡でカモシカの姿を追う参加者

## 何だろう？

ブナの木に無数についたヤドリギ。まるで鳥の巣のようです



## みそ汁

ブナオ山観察舎での昼食時には温かいみそ汁がふるまわれました







かんじき

## 白山まるごと体験教室

### かんじきハイキング

白山まるごと体験教室「かんじきハイキング」は2月17日、白山市一里野のブナオ山観察舎とその周辺で34名が参加して行われました。

前日から降り続いた雪で観察舎周辺の積雪は2mを超え、長距離を歩くのが困難になったため、予定を短縮して実施しました。開会式の後、参加者は白山自然ガイドボランティアや白山自然保護センター職員らをリーダーに5班に分かれ、かんじきをはいて雪の森のハイキングに出発。かんじきをはいても胸まで沈む新雪の中を交代でラッセルに挑戦しました。雪の中でもがきながらも、初めての体験に大喜びでした。終了後は暖かいお汁粉に舌鼓をうちました＝写真＝。閉会式では白山の雪

と動物についての講話も聞き、冬の自然に理解を深めました。



## ラッセルに挑戦



深い雪にもがきながらラッセルを体験する参加者

## 童心に返って尻滑り

### 楽しいミニ観察会

ブナオ山観察舎では土曜、日曜、祝日に、かんじきをはいて雪の森へ出かけるミニ観察会を実施しています。

かんじきは昔から伝わる雪国の知恵で、これをはけばそれほど沈まずに雪の上を歩くことができます。来館者の多くは初体験で、雪上歩行を楽しみながら動物の足跡などを観察しています。

なかでも好評なのは尻滑りです。ビニール袋をお尻に敷いて雪の斜面を一気に滑り降りる。声援やら歓声やら、子どもは無論、年配者にとっても童心に返って雪とたわむれるひと時です。

実施時期は12月から4月の土日、祝日。時間は10時から12時、13時から15時の間で1~2時間。参加無料。団体以外は事前申込不要。



仲間の声援にバンザイをしながら滑り降りる参加者

平成 20 年度石川県白山自然保護センター開催事業

## いしかわ自然学校「山のまなび舎」

## 白山まるごと体験教室 「白山を心と体で体験しよう」 要申込 (約 1 か月前から)

回数	日時	タイトル	内容	場所(集合)	定員
①	7月27日(日) 9:00-15:00	化石で探る 太古の白山	化石や地層を観察して太古の白山について考えます。	白山市瀬戸(尾添川) (白山自然保護センター本庁舎)	30
②	9月20日(土) 13:30-16:00	秋の音、ネイチャーコンサート -民謡とオカリナ・ 二胡の演奏-	鳥のさえずりや川の音そして野外での演奏。自然の中に浸りいろいろな音を楽しみます。	白山市中宮(蛇谷) (中宮展示館)	50
③	10月5日(日) 9:00-15:00	トチノキ観察と トチモチ作り	トチノキ観察とトチノキの実をトチモチとして食べるまでの苦労を少しだけ体験。	白山市白峰(チブリ尾根) (市ノ瀬ビジターセンター)	30
④	11月22日(土) 10:00-15:00	イヌワシを探そう	双眼鏡や望遠鏡を使ってイヌワシを探し観察します。	白山市尾添(一里野) (ブナオ山観察舎)	30
⑤	2月15日(日) 10:00-15:00	かんじきハイキング	かんじきを履いて雪の上を歩きながらのアニマルトラッキング。	白山市尾添(一里野) (ブナオ山観察舎)	30

※②は中宮温泉旅館協同組合、③はネイチャープロジェクト白山と主催。

## ■白山麓里山・奥山ワーキング 「白山をみんなで守ろう」 要申込 (約 1 か月前から)

回数	日時	タイトル	内容	場所(集合)	定員
①	7月12日(土) 9:00-15:00	白山中宮道ブナ林 観察と草刈り	草刈り作業の体験を通して、白山の環境保全について理解を深めます。	白山市中宮(中宮道) (中宮温泉)	50
②	11月1日(土) 13:00-16:00	白山麓カキもぎ隊	カキをもぐ作業を行い、サル・クマなどの獣害対策に役立っています。	白山麓	50

※①は中宮温泉旅館協同組合と主催

## ■県民白山講座 「白山を知ろう」 申込不要

回数	日時	タイトル・会場	内容	定員
①	6月14日(土) 13:30-17:00	白山登山と高山植物の集い ・ 白山市民交流センター	白山の夏山シーズンを前に、白山登山の心得や白山の自然について紹介します。	200
②	6月29日(日) 13:30-16:30	百名山と白山 ・ 加賀市立大聖寺地区会館	白山を愛した深田久弥氏の足跡・思いなどをふりかえりながら白山の自然のすばらしさを紹介します。	200
③	8月23日(土) 13:30-16:30	白山の高山にすむ動物たち ・ 石川県立生涯学習センター	白山の高山帯にすんでいるオコジョなどの野生動物について考えよう。	100

※①は石川県自然解説員研究会と主催、白山市と共催。③は白山市と共催。

## ■ガイドウォーク・ミニ観察会 「遊び心で歩こう」 申込不要

中宮展示館・市ノ瀬ビジターセンターでのガイドウォーク

- ・ 白山自然ガイドボランティアや職員が中宮や市ノ瀬の自然を案内。
- ・ 日時：5月～10月の土・日・祝日の10:00-12:00、13:00-15:00の間で1-2時間程度

ブナオ山観察舎ミニ観察会

- ・ かんじきを履いて雪山を歩き、自然を観察します。
- ・ 日時：12月～4月の土・日・祝日の10:00-12:00、13:00-15:00の間で1-2時間程度

&lt;編集・谷野一道&gt;

